

◆ 解 禁 ◆
テレビ・ラジオ・インターネット
7月21日（金） 17時以降
（文化審議会終了後）
新 聞
7月22日（土） 朝刊

記者発表資料
令和5年7月20日
教育庁文化財課保存活用班
担当 白崎恵介・遠藤健悟
電話 022-211-3683
bunzaih@pref.miyagi.lg.jp

文化財保存活用地域計画の認定について

令和5年7月21日、文部科学省文化審議会文化財分科会は、下記の文化財保存活用地域計画2件を新たに認定するよう、文化庁長官に答申する予定です。認定は、答申後に行われる通知をもって正式決定となります。

本地域計画は、平成31年4月に施行された改正文化財保護法により制度化されたもので、市町村が作成する地域における文化財の保存・活用に関する総合的な計画です。本認定により各市町では、文化財の保存・活用が一層推進されることとなります。

今回認定を受ける名取市及び涌谷町の地域計画は、県内初の認定となります。

記

文化財保存活用地域計画名	概要（詳細は別添資料）
名取市文化財保存活用地域計画	市域の歴史文化の特徴を示す6つのテーマを設定し、歴史文化資源を重要な地域資源として活かしながら、確実に未来に受け継いでいくことを目標とした計画です
涌谷町文化財保存活用地域計画	町域の歴史文化の特徴を4つに整理し、地域総がかりで文化財を知り、活かし、伝える体制の構築を図り、文化財の継承につなげていくとともに歴史文化を活かした地域活性化を図ることを目標とした計画です。

名取市文化財保存活用地域計画にかかる問い合わせ先

名取市 文化・スポーツ課文化財係 022-724-7176

涌谷町文化財保存活用地域計画にかかる問い合わせ先

涌谷町 生涯学習課文化財保護班 0229-43-3001

01 名取市文化財保存活用地域計画【宮城県】

【計画期間】 令和5～12年度（8年間）
 【面積】 98.17km²
 【人口】 約7.9万人



歴史文化の特徴を示す6つの「テーマ」

1. 【愛島・高館の森や海辺の丘と縄文のくらし】

名取の歴史の原点とも言える、旧石器時代、縄文時代の遺跡の多くは、市西部に連なる高館丘陵や、そこから平野部中央付近に突き出した愛島丘陵上に位置している。これらの遺跡は、我々の先人たちが、それぞれの時代や場所で背景にある自然環境に適応しながら生活し、新しい文化も採用しながら伝統を守り、少しずつ名取らしさを物語る文化を形づくってきた「足跡」ということができる。

2. 【雷神山古墳と花開いた古墳文化】

眼下に名取平野を見下ろす愛島丘陵の東端部に、全長168mの東北最大規模を誇る雷神山古墳がある。4世紀後半頃に築造されたこの前方後円墳は、当時は東日本でも最大級の古墳であり、当地に広範囲に影響力を持った有力な豪族がいたことや、築造を可能にするだけの政治的・経済的な基盤があったことを物語っている。

3. 【名取郡の成立と実方中將】

7世紀終わり頃には、多賀城以前の陸奥国府（郡山遺跡）が名取に置かれていることから、当時の名取が東北地方の太平洋側における政治・文化の重要拠点として、広く知られていたことがわかる。

4. 【熊野三社と名取老女】

平安時代後期に名取老女によって勧請されたとされる名取熊野三社は、本宮（ほんぐう）・新宮（しんぐう）・那智（なち）のそれぞれが独立している稀有な特徴を有し、東北の熊野信仰布教の中核を担う施設であったと考えられている。

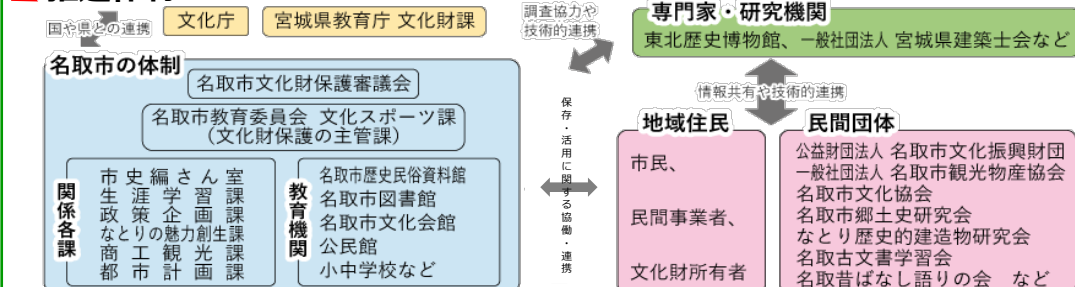
5. 【増田宿と洞口水・旧中澤家住宅】

市中心部にある増田地区は、南北に延びる浜堤上にあり、中世には「奥大道」と呼ばれる幹線道が通り、関所が設けられ、早くから人の往来があったことが知られている。奥州街道が整備された近世には、増田宿が設けられ伝馬など宿駅の運営を取り仕切る検断役や検断屋敷なども置かれ、物資や情報が集まり多くの人々が住まう「まち」を形成した。

6. 【貞山運河と関上】

名取川河口部の「ゆりあげ」は、中世末の海運関係の古文書にその名が見え、当時から仙台と外洋をつなぐ物資運搬の拠点として知られていた。近世には仙台藩直轄の漁港となり、初期には材木・米などの物資の集積地や漁港として知られ、「木曳堀」を前身とする「貞山運河」は、当初、主に仙台北下への建築資材の運搬などに利用されていた。

推進体制



指定等文化財件数一覧 (令和5年7月現在)

区分(種別)		国		県		市		合計	
		指定	選定	登録	指定	指定	登録		
有形文化財	建造物	2	0	1	2	5	10		
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0	0	
		彫刻	0	0	0	1	3	4	
		工芸品	1	0	1	0	4	6	
		書跡・典籍	1	0	0	1	0	2	
		古文書	0	0	0	2	0	2	
		考古資料	0	0	0	2	1	3	
歴史資料	0	0	0	4	0	4			
無形民俗文化財		0	0	0	0	0	0		
民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	0	1	2	3		
	無形民俗文化財	0	0	3	6	0	9		
記念物	遺跡(史跡)	2	0	0	7	2	11		
	名勝地	0	0	0	0	0	0		
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	0	0	0	1	1	2		
文化的景観		0	—	0	—	—	0		
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	0		
合計		6	0	5	27	18	56		

指定等文化財は、56件
 未指定文化財は、20,112件(四捨五入)

歴史文化資源の保存・活用に関する目標【歴史文化を確実に未来へ伝える】

歴史文化資源全般の保存・活用の方向性

方向性1

計画期間内は、市史編さん事業と連携した歴史文化資源の把握に重点を置く。

方向性2

歴史民俗資料館を拠点に6つの「テーマ」の保存・活用に重点を置き、丘陵部・平野部・海浜部や資料館をつなぐ取り組みを行う。

方向性3

保存・活用の各主体者との関係構築に重点を置く。

保存・活用の課題・方針・措置の例

1 保存・活用の基盤整備

1-1(1)拠点施設の整備

- ①説明板・案内板などの設置や更新が必要。
- ②未整備の史跡などの価値が活かされていない。
- ③資料の収蔵や展示物の保存・活用環境の改善が必要。
- ④建造物や史跡などの環境維持や整備推進が必要。

1-1(2)基本情報の整備

- ⑦未指定の歴史文化資源の基本情報把握や調査不足。
- ⑨情報の一元管理や蓄積・共有する仕組みが整っていない。

1-1(3)保存・活用の体制整備

- ⑩歴史文化資源のガイドボランティアが少ない。
- ⑫各主体者間の連携・協働体制の整備が必要。

2 歴史文化の特徴（「テーマ」）を柱とした保存・活用の推進

2-1(1)「知るこゝろ」：内容や情報の把握

- ⑬体系的・網羅的な調査に基づく基本情報が整っていない。
- ⑭「テーマ」に関わる歴史的価値の把握と価値付けが必要。

2-1(2)「知ってもらうこゝろ」：情報発信・共有

- ⑯6つの「テーマ」などの認知度が低い。
- ⑰多様な媒体・手法での周知ができていない。
- ⑱市内周遊や「テーマ」関連の活動・体験が少ない。
- ⑲資料館外の学習・交流活動が少ないため、周知の幅が狭い。

3 確かな保存・継承の推進

3-1(1)指定・登録文化財の拡充

- ⑳「価値付け」が進んでおらず指定・登録件数も多くない。
- ㉑指定・登録文化財の、分野や時代に偏りがある。

3-1(2)保存・継承のための仕組み構築

- ㉒防犯・防災や災害時の対応方法などの理解・共有。
- ㉓歴史文化資源の防犯・防災、災害時のリスク把握。
- ㉔助成金交付や情報提供以外の支援が不足している。
- ㉕保存・活用推進の制度や仕組みづくりが必要。

1 保存・活用の基盤整備

1-1(1)拠点施設の整備

- 周遊を促す説明板・案内板設置や、既存の説明板などの計画的な更新。
- 個別保存活用計画策定や未整備の史跡整備を検討。
- 資料館の収蔵資料の収蔵環境の改善に努める。
- 建造物や史跡などの環境維持や改善、施設などの計画的な更新・修繕と、必要な財源確保に努める。

1-1(2)基本情報の整備

- 「テーマ」などの基本情報の把握や継承、把握調査に努める。
- 「テーマ」の情報などをデータベース化し、一元管理や共有化を図る。

1-1(3)保存・活用の体制整備

- 「テーマ」や関連する歴史文化資源の周遊を促すガイドボランティアを育成する。
- 多様な主体者の協働・連携体制づくりや人材育成、情報・課題の共有に努める。

2 歴史文化の特徴を柱とした保存・活用の推進

2-1(1)「知るこゝろ」：内容や情報の把握

- 市史編さん事業の調査と連携し、歴史的価値や魅力・特性などの把握に努める。
- 新たな歴史文化資源や「テーマ」の掘り起こしに努める。

2-1(2)「知ってもらうこゝろ」：情報発信・共有

- 拠点施設での「テーマ」の積極的な周知・活用を図る。
- 資料館のHPに「テーマ」の情報窓口を設置、オンライン配信の活用など、多様な手法による周知・発信や共有を行う。
- 関連施設との連携や文化財を活用した「テーマ」の周知を推進する。

3 確かな保存・継承の推進

3-1(1)指定・登録文化財の拡充

- 「テーマ」に関連する歴史文化資源を重点的に、指定・登録文化財候補の調査・選定を行い、指定・登録を推進する。

3-1(2)主体的な保存・継承のための仕組み構築

- 保存・管理や防災、防犯のマニュアルを作成し共有化を図る。
- 文化財所有者や民俗芸能保存団体への継続的な助成支援や、協働による活動などを通じて、課題や情報などを共有できる仕組みを整える。
- 「テーマ」に関連する歴史文化資源の認定制度創設や支援の在り方などを検討する。

1 歴史文化周遊説明板等整備事業

来訪者の多い「テーマ」の構成文化財の場所を選定し、近隣や他地区にある核となる構成文化財、近隣にある他の「テーマ」の構成文化財、資料館HPなどへ誘導する統一仕様の多言語説明板などを設置する。 ■行政 ■R5~12

14 歴史文化資源台帳作成事業

市の歴史文化資源の基本情報や本質的な価値内容を一体的に保存・継承し活用するデータベースを構築する。 ■行政 ■R5~12

17 ガイドボランティア育成事業

資料館を拠点とし、各「テーマ」の概要や、現地案内などの周遊促進を図るガイドボランティアを育成する。 ■行政・市民・地域 ■R5~12



21 民俗分野詳細調査事業

市史編さん事業と連携し、有形、無形民俗文化財の調査を実施し、「テーマ」の構成文化財などの価値付けを行う。 ■市民・地域・行政 ■R5~12

26 「テーマ」・保存活用区域HP作成事業

拠点施設である資料館のHP上に、「テーマ」などの情報窓口ページを作成し、「テーマ」の内容周知や、刊行物、現地説明板とリンクさせ活用・周遊を促進する。 ■行政 ■R5~6



39 指定・登録文化財候補調査事業

市史編さん事業と連携した「テーマ」の構成文化財を重点とする候補選定調査を行う。名称・員数・状態・価値・所有者・管理者・管理状況・防災・防犯などを調査。 ■行政・市民・地域 ■R5~12



42 防災・防犯の手引き・マニュアル等作成事業

歴史文化資源の防災・防犯の手引き・マニュアル作成を行い、関係者への配布やHP上での公開を行い周知する。 ■行政 ■R5~9

5ヶ所の歴史文化保存活用区域

設定の目的と考え方

歴史文化保存活用区域（以下、単に「区域」と表記）は、一定区域に集積する「テーマ」に関連する歴史文化資源や、それらを取り巻く周辺環境が織りなす歴史的な空間を、一体として保存・継承し、効果的に活かすための計画区域で、そうした空間が想起させる印象のことを本計画では「空間イメージ」と呼ぶことにする。「テーマ」などが集積し、その特徴が顕著に表れている空間を「区域」として設定することで、より計画的・効果的な保存・活用につなげるとともに、その「空間イメージ」をさらに強めていくことで、歴史文化の特徴や魅力を明確にし、「テーマ」の一体的な保存・活用の推進にもつなげる。また、6つの「テーマ」の保存・活用を推進する取り組みを、設定した「区域」で重点的に行うことで、市内丘陵部、平野部、海浜部を結んで回遊性を高め、まちづくりや観光振興にも寄与することも意図している。

5ヶ所の「区域」の設定

①「熊野の祈り」

熊野三社が所在する区域。名取川や木々が生き茂る丘陵、平野を望み眺望など、当時の風景などもイメージできるような環境も残されている区域。

「熊野信仰」が空間のイメージ



②「縄文・古墳のくらし」

市内で最初の生活の痕跡が確認され、縄文時代には大きな集落が営まれた「名取のはじまり」を象徴する区域であるとともに、雷神山古墳や名取大塚山古墳など、東北を代表する古墳が多く分布する区域。

「名取のはじまり」「古墳文化の繁栄」が空間のイメージ



③「宿場と旧街道」

奥州街道を中心とした増田宿や植松の街道がのこる区域。街道沿いの建物などの多くは建て替えられているが、細長い地割りや道路など、当時からそれほど大きな変化のないものもある。

「街道沿いのまちのくらし」が空間のイメージ



④「農村のくらし」

平野部に点在する農村や田園がのこる区域。重要文化財 洞口水家住宅などの大きな堀や「いぐね」に囲まれた屋敷構えや地割り、茅葺の建物、周囲に広がる水田など、近年の「くらし」の原風景とも言える景観が見られる。

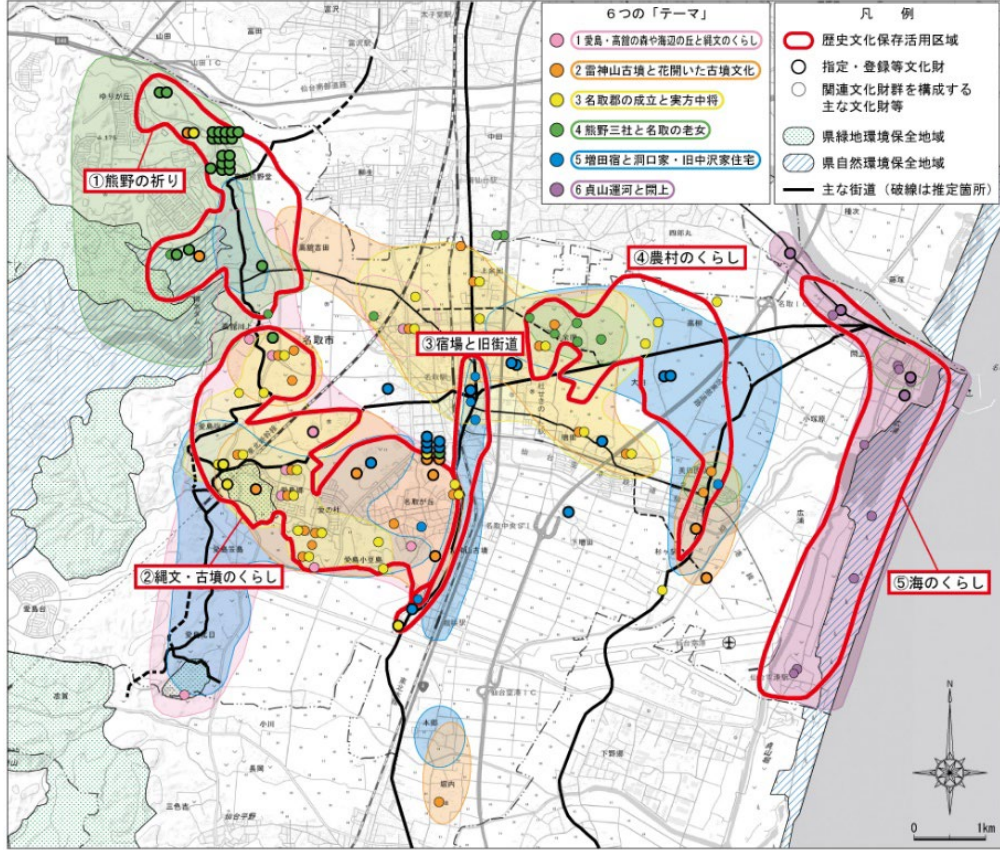
「田園風景と近年のくらしの原風景」が空間のイメージ



⑤「海のくらし」

関上・北釜を中心とする区域。名取川や広浦、防潮林なども含めた海沿いの景観と一体となり空間を構成。

「豊かな海や内湾、川や運河沿いのくらし」が空間のイメージ



「区域」の基本的な方向性

方向性A
「区域」ごとの特徴・魅力をより鮮明にし、区域内の主体者と連携しながら周知や継承を行う。

方向性B
6つの「テーマ」と「区域」を一体的に保存・活用する。

方向性C
効果的・効率的な保存・活用のための環境を整える。

区域の概要

空間イメージ「名取のはじまり」「古墳文化の繁栄」

市内で最初の生活の痕跡が確認され、縄文時代には大きな集落が営まれた「名取のはじまり」を象徴する区域であるとともに、雷神山古墳や名取大塚山古墳など、東北を代表する古墳が多く分布する区域。

【区域内の主な歴史文化資源】

雷神山古墳、名取大塚山古墳、今熊野遺跡、泉遺跡、道祖神社、藤原実方の墓、今熊野神社附属神楽、旧中澤家住宅 等



区域の課題

課題A：区域ごとの特徴・魅力の明確化や周知、継承の体制づくり

- 雷神山古墳や飯野坂古墳群などの最新成果を踏まえた調査・研究が必要。
- 古墳や旧石器・縄文時代の暮らしをガイドできる人材に限られ、周知や保存・継承を担う人材育成が必要。

課題B：6つの「テーマ」との一体的な保存・活用

- 区域内の「テーマ」2の関連する歴史文化資源と「農村のくらし区域」の古墳群、「テーマ」3の関連する歴史文化資源と「熊野の祈り区域」にある熊野堂横穴墓群などの一体的な活用機会が不足している。
- 旧中澤家住宅などの「テーマ」5の関連する歴史文化資源や、本区域と旧街道でつながる「熊野の祈り区域」などとの一体的な周知や活用が進んでいない。

課題C：効果的・効率的な保存・活用の環境整備

- 十三塚遺跡、雷神山古墳をはじめとする区域内の「テーマ」2の関連する歴史文化資源や、「テーマ」3などの周遊を促す説明板などが必要。
- 史跡や重要文化財の建造物などの個別の保存活用計画が未策定の状態である。

区域の方針

方針A：区域ごとの特徴・魅力の明確化や周知、継承の体制づくり

- (1) 市史編さん事業と連携し、雷神山古墳、飯野坂古墳群、十三塚遺跡、大塚山古墳に関する情報や価値・魅力などの調査・研究や、周知、継承に努める。
- (2) 「テーマ」2、野田山・十三塚遺跡などのガイドボランティア育成や、本「区域」についての学習機会提供などを通じた人材育成に努める。

方針B：6つの「テーマ」との一体的な保存・活用

- (2) 空間イメージを創出している「テーマ」2の関連する歴史文化資源や、「農村のくらし区域」内の古墳群、「熊野の祈り区域」にある熊野堂横穴墓群も含めた周知や周遊など、一体的な活用を図る。
- (3) 本「区域」と旧東山道・東街道でつながる「熊野の祈り区域」や、旧中澤家住宅も属し「テーマ」5の関連する歴史文化資源が多く資料館がある「宿場と旧街道区域」などとの、周遊や一体的な活用を推進します。

方針C：効果的・効率的な保存・活用の環境整備

- (1) 十三塚遺跡や雷神山古墳、飯野坂古墳群などの関連する歴史文化資源や、区域内の他の「テーマ」との周遊を促す説明板などを整備する。
- (2) 雷神山古墳、飯野坂古墳群、旧中澤家住宅の保存・活用環境や利用価値向上のための将来的な整備に向け、個別保存活用計画の作成を検討する。

区域内で行う主な措置

17-② ガイドボランティア育成事業

縄文・古墳時代の遺跡、資料館への周遊を促すガイドボランティアを育成する。

- 市民・地域・行政
- R5~12



31-② 縄文・古墳 歴史スポット巡り事業

市内の古墳、資料館への周遊ルート開発や周遊事業の実施。

- 市民・地域・行政
- R5~9



2,3,4-② 史跡等の保存活用計画策定事業

雷神山古墳、飯野坂古墳群、旧中澤家住宅の個別保存活用計画策定を検討する。

- 行政
- R5~12



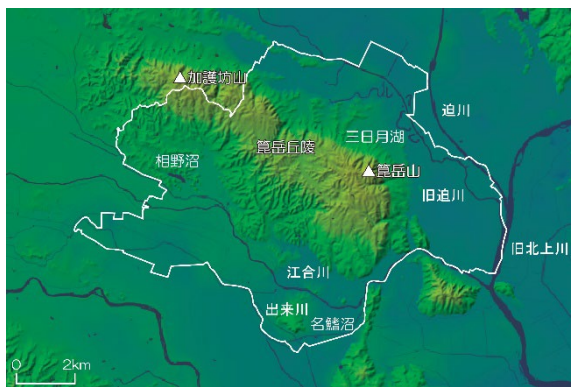
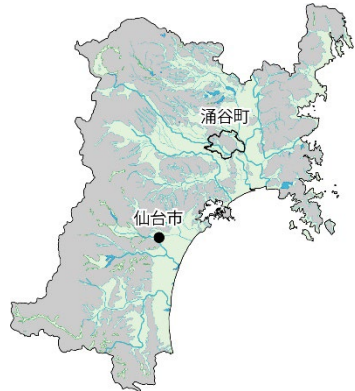
02 涌谷町文化財保存活用地域計画【宮城県】

【計画期間】 令和5～8年度（4年間）

【面積】 82.16km²

【人口】 約1.5万人

【関連計画等】 日本遺産「みちのくGOLD浪漫
—黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる—」（R元年度）



歴史文化の特徴

（1）籠岳丘陵を中心とする里山の歴史文化

町の中央で東西に横たわる籠岳丘陵は、金鉱床や垂炭などを胚胎(はいたい)しながら、2回にわたる褶曲(しゅうきよく)活動により現在に至っている。これら地質資源と人々の出会い、特に天平21年(749)の黄金産出は、我が国に大きな影響を与えた。産金以後、山頂に籠峯寺が鎮座してからは地域を加護し安定をもたらす存在となり、「みちのく」の里山として認識されている。

（2）城下としての涌谷のまち文化

近世、涌谷伊達家が涌谷城に入城して以降は、武士住宅街、町人町、寺屋敷などが町割り整備され、城下町として機能、現在の涌谷町の中心市街地に発展した。現在の涌谷町の市街地の区画や水路は基本的にこの町割りから受け継がれたものであり、「涌谷城跡」を中心として点在する寺社の建造物や武士住宅、旧家に残されている古文書など、現在の涌谷町形成の礎となった歴史文化資源が数多く残されている。

（3）低地と共に暮らす人々の生活文化

籠岳丘陵をとりまく平野部では、北に旧追川、南に江合川が流れ、東端部で旧北上川に合流する。河川の流路に沿って発達した自然堤防、その周囲には広大な低湿地が形成されている。縄文時代から人々は、この自然環境がもたらす恩恵を享受してきたが、中世以降は、治水・水利事業を繰り返しながら低地を開発する努力が続けられ、現在は水田として広く耕作されている。

（4）町域全体の自然的特徴

（1）から（3）の歴史文化は地質・鉱物・地形・湖沼などの自然環境がもたらしたものであり、これらの歴史文化全体にかかる自然的特徴がある。

指定等文化財件数一覧（令和5年3月現在）

類型 \ 指定区分		国指定	県指定	町指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	0	3	9	0	12	
	美術 工芸品	絵画	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	0	0	0
		工芸品	0	0	1	0	1
		書跡典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	1	0	0	1
歴史資料	0	0	2	0	2		
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	0	1	
	無形の民俗文化財	0	1	1	0	2	
記念物	遺跡	2	0	3	0	5	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	16	0	16	
文化的景観		0	0	—	—	0	
伝統的建造物群		0	0	—	—	0	
合計		2	5	33	0	40	

指定等文化財は、40件
未指定文化財は、526件把握

推進体制

	取組主体
町	教育委員会生涯学習課、教育委員会教育総務課、総務課、企画財政課、まちづくり推進課、農林振興課
関係施設	涌谷町立史料館、わくや万葉の里、追戸横穴歴史公園、涌谷町くがね創庫、涌谷町公民館、籠岳公民館、涌谷町立史料館収蔵庫
専門家	涌谷町文化財保護委員会、宮城県教育庁文化課、東北歴史博物館、多賀城調査研究所、宮城県図書館、東北大学、東北学院大学、東北工業大学、宮城学院女子大学、石巻専修大学
団体	学校、各地域自治体、歴史文化資源保存・活用団体、各伝承芸能保存団体、民間事業者、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会、大崎地域世界農業遺産推進協議会、涌谷町観光物産協会、遠田商工会
町民	所有者、個人、観光ガイド、文化財ボランティア、地域住民

【基本理念】 涌谷の宝を、知り、活かし、未来へ伝える

基本理念の方向性

歴史文化資源の保存や活用には、歴史文化資源の所有者や町民、民間団体など、地域ぐるみで取り組むことが重要ですが、そのためには、まず町民が地元の歴史文化資源を知ることが大切です。これによって、歴史文化資源を様々な取組みに活かすとともに、次世代へ継承することができます。

歴史文化資源の保存・活用

※町：涌谷町、専：専門家、団：団体、民：町民

歴史文化資源の保存・活用に関する課題

把握調査・普及啓発の課題

- 歴史文化資源の把握調査の不足
- 歴史文化資源の普及啓発と価値の共有の不足



※歴史文化資源が豊富にある麓峯寺

保存・活用の課題

- 適切な保存と整備の不足
- 防犯・防災対策の課題
- 活用の不足



※多くの活用が望まれる「佐々木家住宅」

土台づくりにかかる課題

- 保存・活用の土台づくりの不足

歴史文化資源の保存・活用に関する方針・取組

基本方針1 歴史文化資源を知り、分かち合う

- 方針(1) 把握の推進
 - ・継続的な把握
 - ・継続的な調査 など
- 方針(2) 普及啓発と価値の共有の推進
 - ・学校教育における学習機会の充実
 - ・町民へ向けた普及啓発 など

基本方針2 歴史文化資源を守り、まちづくりへ活かす

- 方針(3) 適切な保存と整備の推進
 - ・地域で活動する伝承芸能団体等への支援
 - ・保存施設の整備 など
- 方針(4) 防犯・防災対策の推進
 - ・文化財所有者等への防犯・防災・減災啓発活動
 - ・災害情報の公開 など
- 方針(5) 活用の推進
 - ・観光・イベントへの活用推進
 - ・広域連携の推進 など

基本方針3 歴史文化資源を伝える土台づくり

- 方針(6) 保存・活用の土台づくりの推進
 - ・町民や団体の担い手育成・支援・協力
 - ・文化財行政の体制強化 など

歴史文化資源の保存・活用に関する措置の一例

1 把握調査の実施

『涌谷町史』参考資料群や麓峯寺、美術工芸品などの把握調査の実施・内容更新する

- R5～8
- 町、専、団



46 町指定「佐々木家住宅」の利活用事業

町指定「佐々木家住宅」「佐々木家屋敷」の公開整備を行い、活用事業を推進する

- R5～8
- 町、専、団、民



57 歴史文化資源の保存・活用に関する体制の整備

町の情報発信部門と連携を強化し、歴史文化資源が身近に感じられる情報発信を行う

- R5～8
- 町



一定のテーマ・ストーリーにより紐づけた「関連文化財群」

涌谷町の関連文化財群

涌谷町の歴史文化の特徴を踏まえ、その価値や魅力を効果的に保存・活用するためには、各特徴に関係する様々な歴史文化資源を、指定・未指定にかかわらず一定のテーマ・ストーリーにより結びつけることで、個別の歴史文化資源はもとより歴史文化資源群が表す本質的価値や魅力の向上を図ることができる。涌谷町では歴史文化資源を点ではなく、線、ひいては面として有機的・多面的に保存・活用を図るため、一定のテーマ・ストーリーにより紐づけた関連文化財群を設定した。

歴史文化の特徴	番号	関連文化財群の名称 (ストーリー)	時代の流れと主な構成歴史文化資源 ※色の濃い部分は核となる時代						
			縄文時代以前・縄文・弥生・古墳時代	古代	中世	近世	近代	現代	
(4) 町域全体の自然的特徴 歴史文化 (1) 麓岳丘陵を中心とする里山の文化 (2) 城下としての涌谷のまち (3) 低地と暮らしに暮らす人々の生活文化	1	多彩な地質・地形がもたらす豊かな自然 本町にある地質・鉱物・地形・湖沼などからもたらされる豊かな自然は、あらゆる歴史文化が育まれる礎となってきた。						麓岳山(名勝地) 麓岳・涌谷の砂金(鉱物) 麓峯寺次郎杉(植物) 麓金山神社ご神木の杉(植物) 「麓岳山」の雲海(名勝地)	
	2	産金と人々の縁(えにし) —資源と人の出会い— 日本初の産金によって、みちのくの風土に根付いた“金”と人々の縁は、きらめく浪漫に満ち溢れている。						麓金山産金遺跡(遺跡) 出土古瓦(考古) 麓金山神社拝殿(建造物) 砂金採取民俗資料一式(有形の民俗)	
	3	聖なる山を中心とする里山と人々の祈り —ののだけさま— 作神さまとして篤い信仰を集めてきた麓峯寺は、人々や社会の安寧を祈り続けている。							麓峯寺の正月行事(無形の民俗) 麓峯寺観音堂(建造物) 仁王像(彫刻) 鳥護符(歴史資料)
	4	涌谷伊達家と町のはじまり —奥州涌谷の城下町— 中世に領地替えをされた涌谷伊達家の統治や城下町の賑わいが、涌谷の町の原型である。							涌谷城跡(遺跡) 見龍院霊屋(建造物) 佐々木家住宅(建造物) 古式獅子舞(無形の民俗)
	5	低地を活かし拓く —人々の営みと実り— 縄文海進によって、自然環境や人々の生活が移り変わり、低地部は新田開発の舞台となるなど、人々は常に自然環境と共に文化を育んできた。							長根貝塚(遺跡) 長根貝塚出土遺物群(考古) ツナギの沢貝塚(遺跡) 三日月湖(景観) 棒掛けと赤とんぼ(景観) 麓岳白山豊年踊り(無形の民俗)

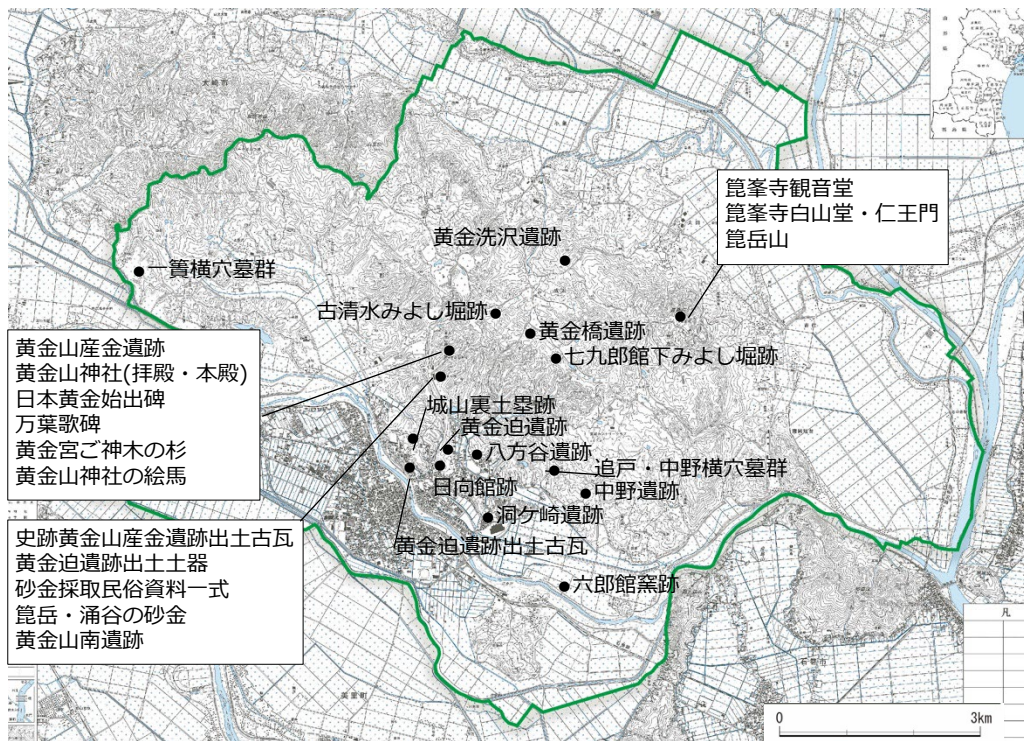
概要

8世紀前半、涌谷町域は律令政府の領域に組み込まれ、坂東の国々からの移民で成立した陸奥国最北辺の「小田郡」に所属していた。小田郡には陸奥国6軍団の1つ「小田軍団」がおかれた最北辺を守る拠点地域であったことが知られている。城柵官衙遺跡として日向館跡や城山裏土塁跡、墓域として追戸・中野横穴墓群、生産遺跡として長根窯跡群などが分布している。

天平21年(749)春、陸奥国は小田郡から黄金が産出したことを報告し、陸奥国守百済王敬福は自ら黄金900両(約13kg)を携えて献上。聖武天皇はこれを日本初の産金として神仏双方に深く慶祝し、大伴家持はその喜びを最北の万葉歌として詠んだ。国史跡黄金山産金遺跡は、神仏双方を慶祝した仏堂跡と神社で構成される国家の聖地である。籠岳丘陵から産出する金は、地層の中に砂金が堆積する二次鉱床を起源とする砂金に限定されるため、当時の人々も1粒ずつ砂金を採集したと考えられる。砂金は、東大寺・大仏の鍍金(金メッキ)材料に用い、その後は遣唐使や唐への留学僧の資金、国家の貿易決済の費用となった。やがて、砂金は平泉の黄金文化を支えるものとなっていった。

このように「産金と人々の縁」は、金という鉱物資源と人々の出会いや関わりから生み出された遺跡・遺物、民俗文化財、動物・植物・地質鉱物などを「縁」として構成する関連文化財群である。

主な構成歴史文化資源



関連文化財群に関する課題

ストーリーの時代背景やストーリーから生み出された歴史文化についてはまだまだ認知されていない。天平ろまん館も、新型コロナウイルス感染症などの影響を受け、入館者数が伸び悩んでいる。

関連文化財群に関する方針

東大寺サミットや日本遺産「みちのくGOLD浪漫」といった既存で実施してきた事業を推進し、関連文化財群のストーリーを広く知ってもらう事業を推進する。併せて、公開施設などでストーリーを体験する取り組みを推し進め、地域の活性化につなげていく。

関連文化財群に関する主な措置

- 39 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」関連事業
 - R5~8 ■町、専、団、民
- 41 東大寺サミットへの参画、支援
 - R5~8 ■町、団
- 43-1 公開施設における展示会の開催
 - R5~8 ■町、団、民
- 44-1 追戸横穴歴史公園の開園
 - R5~8 ■町、団



日本遺産のシティセールス



みちのくの金関連の企画展